

## (一社)世界文化遺産地域連携会議 総会議事録

2019年8月19日(16:00-17:30 於・霞山会館)

門川代表理事

皆様ようこそお集まり下さいました。

特に松浦さん、いつもこの会のことを気にかけて下さいまして、本当に有難うございます。

8年前に設立されたこの会では、世界遺産を持つ地域やその関係者が連携・交流し、さまざまな共同事業を推進する中で、世界遺産の永続的保全と、それを持続的に活用したまちづくり、あるいは情報発信などをおこなってきました。今日までの、皆様方のご協力に心から感謝申し上げます。

一方で、世界遺産をめぐる将来のことを展望しますと、会として取り組むべき課題は山積しています。ノートルダム寺院の火災が世界に大きなショックを与えましたが、地震や津波、台風などふくめた災害からどう世界遺産を守り抜くかという問題。また、バッファゾーン含めた景観保全の問題もあります。さらに情報発信の面では、間近に迫っている東京オリ・パラにどう対応していくか、というのが喫緊の課題です。私たち、全国の世界遺産地域が連携すれば、世界から集まるメディアに、日本の一番素晴らしい部分を伝えていくことができるかも知れません。

これからの1時間半を皆様方とともに、様々なアイデアを出して行く時間になりたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

お世話役・井戸

お世話役の井戸です、まず本日のご出席者ですが、資料2Pから4Pの通りです。御一方ずつご紹介すべきところですが、時間の都合上割愛させていただきます。

前回の総会以降新しく会のメンバーになられた方々は4Pです。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」より平戸市さん、南島原市さん、佐世保市さん、五島市さん、そして熊本県天草市さん。そしてこの度「百舌鳥古

市古墳群」が新規登録されました堺市さんが本日、オブザーバーとしてご出席くださっています。

(平戸市・黒田市長、南島原市、佐世保市、堺市より自己紹介)

井戸 (議案 1 説明)

第一点目は新しい理事のご就任についてでございます。会の規約に基づきまして、平戸市。黒田市長さんはじめ南島原市・佐世保市・五島市・天草市の各市長さんに会の理事就任をお願いしたいと考えております。

また第二点目として、これは半分私事でたいへん恐縮なんです、私・井戸がこの春、歴史街道推進協議会を定年退職いたしましたものですから、では会の事務所をどこにおくかという問題が出て参っております。

門川代表理事ともご相談させていただき、その結論としては、京都市の文化財保護課内を会の事務局所在地とさせていただくのはどうかということでございます。社団法人になりましたので、皆様の決議をいただきませんと登記の変更ができませんので、この件につきましても、宜しく願いいたします。

(議案 1 承認)

井戸 (議案 2・3 説明)

議案 2. 3 は昨年度事業報告と決算です。

まず、資料 5P に、昨年の議論も踏まえ、会が目指すべき当面の活動レベルアップの方向性につきここにまとめております。

第 1 に、昨今のサミットのテーマにもなっている「連携・交流の深化」についてです。図をご覧くださいと思いますが、会の活動の 3 本柱は「連携・交流」「各種共同事業の推進」「要望提案」、また事業の 3 本柱は世界遺産の「保全」と、それを活用した「欧米インバウンド」や「世界遺産のまちづくり」ということだと思っております。

緑の部分ですが、共同事業の種類についてまとめています。全体でやる要望活動のような事業はもちろんですが、全ての遺産は言ってみれば「異なるスポーツ種目の日本代表選手」ですから、みんな一緒にやれることがある一方で、背景や

事情やニーズが相当異なる面もあるということです。

従って、全体で取り組めること以外に、②として「やりたい遺産間でやる」ような共同事業。例えば「観光ゴミ持ち帰り運動」や京都と広島が以前やっておられた米国キャンペーン、また後で説明します「リレー催事」のようなものです。

さらに、③のテーマ型・隣接型というのは、例えば産業観光のような同じテーマを持つ遺産どうしで何かやる、また隣接する富岡と日光、釜石と平泉、あるいは西日本・九州といった場所どうしで、共同事業を進めるといった方向性です。

④として各遺産にあるNPO・語り部団体・宿泊施設・商工団体・学校・DMOといった同種組織の連携強化というのも大事なテーマとなります。

加えて、黄色の枠ですが、会が特定の遺産の問題を解決に向かわせるために各地元と組むプロジェクトチームのような共同事業があります。

こうしたことを通して、できれば会が全遺産と何らかのコラボをやっているような状態を作っていくことが理想だと考えております。

2番目、当面の課題はとりあえず最低3つはあると認識しております。

1つめが間近に迫って参りました東京オリ・パラへの対応。

各遺産の情報をワールドワイドに発信していくこれほど大きなチャンスは二度とないかも知れません。

2つめはロビー機能の強化。「世界遺産議連」ほかとのさらなる連携に加え、夏の1日だけではなくて、日常的ロビー活動に力を入れていく必要があると思います。

そして3つめが言うまでもなく活動財源の確保ということだろうと思います。

さて、6Pより、昨年度の会の活動をご説明します。

第1は交流や意見・情報・ノウハウの交換です。

本日は「世界遺産サミット」提唱者の鶴保先生がお越しです（もう暫くでお見えになります）が、昨年度は第5回目の「サミット」を姫路市で開催しました。分科会としては第1が西日本や今帰仁城の大雨被害なども受け、世界遺産の保全。第2が西日本での世界遺産連携とインバウンド、第3が民間リーダー間の連携ということで、意見交換いたしました。そしてそこからの問題提起を受けメインイベントである首長会議が開催されております。

併せて、今帰仁の山内さんが管理人をやっておられるメーリングリストを活用した情報交換、また昨年は総会を1回、東京での交流会を1回開催しております。

7P、活動の第2は要望・提案活動です。

世界遺産特別法を作っていくに際しての世界遺産議連の再興につき河村先生、また「出向税」関係につき国交省の森次官や、要望当日以外にも門川さんに萩生田幹事長代理の所に行っていただいております。また鶴保先生より観光立国推進会議での提案の場をいただいたり、以外にも「リレー催事」のことも含め、文化庁・観光庁のほぼ全ての関係課長と意見交換させていただきました。

活動の第3は7P下側から9Pにかけての、各遺産ごとの問題への取り組みです。主には文化庁の「世界遺産活性化予算」を活用しまして、昨年度発足した斑鳩プロジェクトチームでは、外国語資料の制作や東京での連続講座を実施しました。狙いとしては法隆寺といえども、それが「なぜ第一号遺産だったのか」をきっちり発信していかないと、知らない人、特に外国人からすると「京都の奥に奈良があって、そうはずれにあるのが寺」だと思われてしまう。それをオリンピックまでに何とかしたいということです。具体的には大野館長自ら東京にお出ましいただき、本年度分と併せた内容を本年度12か国語で発信開始しようとしています。下側のアドレスから各界の様子が動画配信されていますので、ご関心ある方は是非ご覧ください。

次に2年目となるのが紀伊山地の霊場と参詣道ですが、なぜ紀伊山地なのかと申しますと、多分ここが全遺産の中で遺産内連携が最も難しそううちの1つだからです。5か年計画で、先ほどのシンポジウムに併せ、ガイドブック・MAP・パンフレットや英語案内看板の不足箇所解消に向けた取り組みを進めております。

もう1つ、一昨年の「サミット」をきっかけにスタートしたのが石見銀山プロジェクトチームです。外国語資料の制作と併せ、西日本の4遺産にもお声がけをし、共同で駅ジャックのようなことを初めています。写真は大阪駅でのもので、大田市以外に、広島・廿日市・萩・姫路での共同事業が始まりました。

9Pの写真の下は4つめの事業項目、情報発信です。HP、パンフレットや記者クラブ関係などに加え、昨年度は「世界遺産リレー催事：実施に向けての情報収集や調整を各地とおこなわせていただきました。最新の現状につきましては、後ほど令和元年事業計画の際にご紹介させていただきます。

続きまして10P11P、平成30年度決算に参ります。

10Pの表の左から3つめ、まん中の枠が平成30年度決算でございます。市町村会費収入は110万円。2団体、8万円ほど振り込み忘れで、入金が新年度になってしまった所がありました。文化庁からの世界遺産活性化予算が約2854万7千円。交流会費28万8万円、これに利息と前年度繰越金を合わせまして3465万5608円というのが昨年度の収入合計です。

支出の部ですが1の要望活動費が14万7524円、2の会議費は総会・交流会・諸会合の合計が81万7081円、うち交流会費の大部分は収入の部③との見合いとなっております。

3のイベント費、31万1172円は世界遺産サミットやその準備の関係です。

4の広報費は15万782円。本年度にHP改訂の費用が国から獲得できる可能性があるという期待の下で、予定していたホームページのリニューアルを昨年度はおこないませんでした。ですのでここにはプロバイダ料と東京セミナー関係で当初予定していなかった分など、文化庁予算で落ちなかった分をここに計上しております。5の事業推進費は収入の部②との見合いで、差額の11万9592円が国予算の対象外となった金額です。特定遺産のためだけではなく、他の遺産でも活用できる事業ノウハウを会として蓄積していくという意義はあるんですが、財政面だけで見ると、国予算をいただいて以前に比べれ資金自体は潤沢になったように見えますが、むしろ若干の持ち出しが生じているということになります。

保守的経費としては調査研究費1万9600円、交通費はほぼ全ての遺産を訪問させていただいたこともあり75万1640円と、昨年より1.5倍に膨らんでおります。通信費も12万9196円と、会の活動が盛んになるにつれ少し膨らんできております。消耗品費が298032円と膨らんだのは主には事務所移転にともなう機材購入です。また事務雑費の17万6828円は、主には法人格取得作業に伴うものです。

以上の支出合計は3147万2447円。次年度繰越金はホームページのリニューアルを行わなかったことにより、予定よりは少し多い318万3161円ということになりました。

なお、収入①の市町村会費はこれらのうち1の要望活動費、2のうちの総会開催、7の旅費交通費、8の通信費、9の消耗品費といった最も基礎的な部分に充当させていただいております。

議案2・3、昨年度事業と決算のご説明は以上です。

寺田監事（監査報告）

（

門川代表理事

（議案 2・3 承認）

井戸（議案 4・5 説明）

12Pをご覧ください。本年度の事業計画です。

まず、本日、この会に先立ちまして、要望活動を実施しました。

1番目の「連携・交流」を深化させるという面では、サミット・総会・交流会やMLなどを通し、会の運営や人的交流はもちろん、各地の進んだノウハウの共有に努めていきたいと思えます。

継続事業に加え、今年はサミットが日光で開催されます。基調講演をデビッド・アトキンソンさん。分科会は第1が保全、第2が東日本での世界遺産連携、第3はまちづくりということで、本会議が今市、分科会は2社1寺にそれぞれ会場をご協力いただく予定です。なお、サミットについてはすでに来年の沖縄開催が決まっておりますが、再来年以降はまだ白紙の状態です。

2番目は要望活動。13Pの上側です。1つにはこの間、ノートルダム寺院の火災がありました。2つ目には約500億円の「出国税」というものがこの間、新たにできました。3つ目に、「4・5兆円の直接消費をもたらしている外国人観光客の、人気のスポット20中半分は世界文化遺産だ」という事実があります。

が、それにしては世界遺産の永続的な保全や持続的活用のための現状はあまりにもお粗末じゃないか、ということを引き続き訴えてきた訳でございます。

お手元の要望資料ご参照ください。

13P下側、「遺産ごとの支援や地域別課題の解消」に向けて、今年も3つのプロジェクトチーム活動を進めてまいります。会として何か貢献できそうな遺産があれば、来年度以降こうしたプロジェクトチームを逐次増やしていくこともできると思えます。

大田市にリーダーシップをとっていただいている西日本の世界遺産連携では、今年は名古屋駅・広島駅・博多駅で、昨年のお阪駅同様のプチ・駅ジャックをやります。参加は大田市と広島の2遺産に萩、姫路を加えた5地域です。

紀伊山地については田辺市さんのリーダーシップで推進されていますが、今年のメインは和歌山県的那智勝浦・奈良県の十津川といった、田辺市以外の所で統一的な外国人案内表示の設置が始まります。田辺市さんには直接的なメリットはなく、多分しんどいことの方が多いと思いますし、「3つの県、もうちょっとしっかりせえよ」とも言いたい所ですが・・・他の広域遺産でもこうした、県に頼らず市町村や市町村連携で回す事業が増え、県や国がそれをしっかりサポートするという体制が組まれるようになる方がいいと思います。紀伊山地の事例はそうした際のモデルになるかも知れないと思います。

法隆寺については秋に2回目の大野管長講演をおこない、昨年分を合わせて、年度末から12言語で世界に発信されます。紀伊山地でも同様の多言語事業をやっておりますが、こうしたことも毎年順繰りに各遺産で実施していけたらなあと考えております。

そして14Pが広報事業の継続、そしてそれに関連して5番目、19Pにかけてが本日最もご議論いただきたい内容です。

後ほどスクリーンでもご説明させていただきますので、少し端折りながらですが、東京オリ・パラにあわせた「世界遺産リレー催事」のラインアップがほぼ固まってまいりました。世界の注目が日本に集まるせっかくの機会ですが、世界遺産自体はどの国にもある訳ですから、こうした「動き」を作っていったらどうかという2年前のこの総会での姫路市さんのアイデア、大変すばらしいものだったと感謝しております。

下側の表のような感じで、19遺産全てが何らかの形で催事候補を出して下さっており、この10月から1年間、20前後の事業が展開されることとなります。時間がなく多少不十分なところもありますが、一度こうしたラインアップができ、「まあ1回でやめることないんじゃない？」ということになれば、あと微修正や事業継続していくことは簡単ですので、そういった意味では少なくとも悪くない一歩を記せる感じになっているのかなという気がしております。

遺産別の調整状況が15Pです。事業の内訳ですが、16Pにありますように新規事業と既存事業をこれに位置づけられるのがそれぞれ8。宗教行事が

海・山・火のお祭りとは法隆寺の秘宝展で季節ごとに4。あとは全体事業としての「桜リレー」となっております「、

その世界遺産桜リレーのイメージが17Pです。

年度に入ってから各地との調整記録が18P。そしてその下側からは「日本博」への申請概要です。

こうしたことを日本博の一環でやりたいということで年末から予算申請しており、審査の合格点には達しているのですが、一部の審査員から「これは単なる宣伝事業じゃないか」という強いクレームが出されたようで、一旦落選させられております。

現在、その部分を相当抑えた分、資料では赤字の箇所ですが、これを7月末に再度、二次募集として出していますが、結果がどうなるかは分かりません。駄目なら駄目なりに最低限の情報発信をやっていくという形になりますが、まあ「ラインアップができた」ことだけでも一歩前進かなと思っています。

議案5、令和年度の予算です。20P左から2つめの欄、収入の部としては市町村会費が137万円。去年の振り込み遅れの分が含まれております。事業収入として文化庁の「世界遺産活性化」事業より、法隆寺・紀伊・石見の3つのプロジェクトチームに計2603万8000円。こちらの予算は確定しております。内訳は法隆寺に901万7千円、紀伊山地に1455万2千円、石見銀山に246万9千円でこちらは確定済です。

これに本日の交流会費24万円と繰越金を合わせまして、本年度予算は3083万1161円となります。

21Pが支出の部です。

1の要望活動に20万、会議費は昨年同様75万の予算を組んでいます。交流会費は収入の部③との見合いです。

イベント費はサミット関係などに20万円。

広報費としてはHPその他の合計で100万円。

5の事業推進費は収入の部②文化庁の世界遺産活性化事業、に対応します。

以外に保守的経費として調査研究費2万円、旅費交通費に75万円、通信費に10万円、消耗品費に10万円、事務雑費に2万円を確保させていただきまして、支出予算の合計2927万8千円。150万あまりを次年度繰越金として残して、合計が3083万1161円というのが支出予算です。

(議案4・5承認)



(パワーポインターによる世界遺産リレー催事の詳細説明)

(参加者による会活動全般についてのご意見、ご質問、ご感想、アイデアなど)

- ・ 松浦顧問
- ・ 南砺（なんと）市・田中市長
- ・ 富士宮市・須藤市長
- ・ 日光市（本年度サミットに関し補足説明等あれば）
- ・ 斑鳩町・中西町長
- ・ 富岡市・榎本市長
- ・ 白川村・成原村長
- ・ 平泉町・青木町長
- ・ 平戸市・黒田市長
- ・ 文化庁
- ・ 観光庁
- ・ 国交省 OB 藤本さん
- ・ 元・国土地理院長の野々村さん
- ・ DMO 推進機構の大社さん
- ・ 元 JAL の須藤さん
- ・ 富岡の熊倉さん
- ・ 奈良の辰巳さん

門川代表理事

(終了挨拶)

お世話役・島川

(交流会のアナウンス)